

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0771100187		
法人名	株式会社 エコ		
事業所名	グループホーム今泉 1階		
所在地	福島県田村市船引町大字今泉字台ノ前11-2		
自己評価作成日	平成26年7月18日	評価結果市町村受理日	平成26年12月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	平成26年9月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①管理者、主任、一般職員間で、お互いに意見を出し合える環境作りをしており、スタッフは安心してケアにあたる事が出来ている
- ②地域の行事に入居者様と一緒に参加している
- ③入居者様の折々のホーム行事にはご家族にも声掛けし、入居者様と共に楽しんで頂いている
- ④外出・外食の支援を定期的に行い、外部との関わりを感じて頂きながら生きがいのある生活を目指している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1. 法人として職員の資質向上に積極的に取り組んでおり、職階毎の研修会や資格取得のための模擬試験などを実施している。
- 2. 地域自治会に加入し町内会議や草刈り等に参加し、また、事業所の広報紙を地域に回覧したり、防災訓練に地域住民の参加があるなど日常的な交流がある。
- 3. 利用者懇談会を毎月開催し、利用者の希望、意向を把握し運営に反映させている。
- 4. 習字、塗り絵、レクリエーション、体操など利用者の能力を活かし生き生きと生活できるよう支援しており、利用者も明るく笑顔が多い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の方々とのふれあいを大切にします」を理念に掲げ、毎朝の申し送り後に日勤者全員で唱和し、その実践に努めている。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を作成し、毎朝の申し送り時に全職員で唱和し、意識を共有しながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の盆踊り等には入居者様と共に参加している。また、町内会にも入り「今泉だより」を毎月回覧して頂き、ホームの行事にも参加頂いている。	地域自治会に加入し、地域の草刈り、毎月2回開催される会合の参加、事業所広報紙を地域に回覧、防災訓練に地域住民が参加するなど地域との交流に積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方にホーム行事に参加頂いた際等に認知症について理解して頂くように努めている。今後は地域の方を対象に認知症についての研修会等も行っていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1回開催しており、事業所の運営内容の報告をし、ご意見・ご指導を頂き、検討している。また、事故報告については質問が多く聞かれているので、改善に努めている。	運営推進会議は定期的開催し、行事、研修、事故、入居者、スタッフ状況など資料を基に説明し、委員からの意見をもらい、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の福祉課と生活保護の事案などで、連絡を取り合う等市担当者との協力関係を深めている。また、地域包括支援センターとの情報交換等も行われている。	防災訓練に参加を呼びかけたり、関係法規について教示を得るなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を受けて、スタッフ会議等で伝達講習を行い、理解を深めている。玄関・内玄関共に施錠は行っていない。	職員は研修などで身体拘束の弊害を理解しており、玄関の施錠を含め、身体拘束をしていない。家族と入居時に利用者の事故等のリスクについて話し合い、意識を共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を受けて、ホーム内で伝達講習を受けている。更に、日頃のケアにおいてスタッフ同士が注意し合える環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・職員は権利擁護に関する研修に参加して、個々の必要性を関係者と話し合い、それを活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明をしており、契約を交わしている。疑問点なども理解が出来るまで、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の意見や要望については、毎月17日に入居者様とスタッフで懇談会を設けて意見や要望を聞き、行事等に反映させている。また、ご家族からは面会時や運営推進会議、行事参加時に聴取し、運営に反映している。	家族の意見、要望を面会時や行事、運営推進会議時に聴取している。職員の顔写真や氏名を玄関に掲示したり、胸に明記し、利用者、家族に周知している。利用者懇談会を毎月開催し、希望や意見を把握し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日々職員の意見を聞いている。本社へは要望書や月時報告書等で事業所の状況を伝えている。	管理者は日々の業務や会議、随時の個別面談などで職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホームのスタッフの状況や人員の配置等、毎夕方に本社より確認の連絡が入り、そこで報告して、職場環境の整備を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外に問わず研修参加の機会が多くある。各々のスキルアップが出来るよう取り組んでいる。法人内では他ホームへ訪問する機会が設けられ、他事業所との交流の中で、よい刺激となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会し、研修に参加している。本社主催のイベントに他事業所を招待している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階でご本人が困っている事、不安な事、要望等を聴き、出来る限りご本人の意向に沿った対応を行うことにより、ご本人が納得し、安心することが出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時にはご家族が抱える不安や要望等を聴き、受診体制や協力体制等について話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提供を行う。その中で、信頼関係を築きながら必要なサービスに繋げるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様との暮らしの中で、入居者様から教えて頂いたり、一緒に行くことで、共に支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族の思いを尊重し、情報の共有に努め、話し合いを行いながらケアを行っている。また、ご家族との絆が途切れないように状況報告や行事参加依頼、ご本人の想いを伝える等している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の生活習慣の把握に努め、出来るだけ入居前の生活が継続できるように努めている。	知人との面会、外食や買い物、家族との墓参りやドライブをするなど馴染みの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の生活で、共有スペースで過ごされる際に職員が介入し、お互いに関わりを持ちやすいような雰囲気作りに心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の際に今後も困りごとがあれば気軽に相談してほしいと伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月の入居者様との懇談会では様々な意見が出てきている。また、日々の関わりの中から、真意の把握に努めている。ケアプラン作成においてもご本人、ご家族より聞き取りを行い、反映させている。	過去の生活歴把握が困難な利用が増えてきているが、出来るだけ利用者本位に思いや暮らし方の希望を聞き取り、反映できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人やご家族から生活歴を聞き、職員間で共有している。入居後も折に触れ双方よりどんな生活をしていただのかお伺いし、サービスの提供に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の毎日の暮らしの現状について、申し送りやケース会議において検討してケアプランに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族より意見を聴き、居室担当者を中心にモニタリングを行い、その結果を基に意見を出し合い、その人らしい生活を送れるような介護計画作成に努めている。	原則3ヶ月毎にアセスメント、モニタリングを繰り返しながら、家族、利用者、医師など関係者の意向をもとに話し合い介護計画を作成している。介護記録も具体的なサービス内容が整理されている。状況の変化や要望がある場合も適切に検討されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、細かな身体状況の変化や日々の生活の様子を記録し、小さな変化に気付けるようにしている。また職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、受診の送迎や往診、入院時の支援は個々の要望をもとに臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族やボランティア団体、職員等から地域支援についての情報を得て、それらの活用に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の希望により馴染みのある医師の診察を受けることが出来る。ご家族の協力を頂いての通院やホーム対応での通院も行っている。通院が困難となった場合の往診体制もとっている。	本人や家族の希望するかかりつけ医を継続受診している。通院は主に職員が付き添い支援しており、通院結果等は電話や文書で報告し情報を共有している。また、24時間オンコール体制と馴染みのかかりつけ医による往診体制もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定により健康状態の把握に努め、変化がみられた際は、医療連携の看護師と連絡を取り相談・助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には状況確認や洗濯支援を踏まえ面会に伺い、早期に退院できるように病院関係者と連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の指針を説明している。また、終末期の意向の確認を行っている。ターミナルケアを実施する場合に備えて、往診体制を整えている。	入居時に事業所の指針により説明し、終末期対応について事前意向確認をしながら理解と同意を得ている。また、重度化や終末期の対応等について研修を通して全職員でターミナルケア等について情報を共有するよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は事故発生マニュアルに沿って対応している。また、全職員が普通救命講習を受講しており、落ち着いて対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、自主訓練を行い、入居者様の状態を念頭に避難誘導できるようにしている。また地域の方々に協力頂けるように今泉自衛消防を設立し、組長会にて参加をお願いしている。災害発生時に備えて、非常食や飲料水等の備品も常備してある。	消防署の協力を得て総合防災訓練を実施しており、火災・地震を想定した避難訓練や夜間を想定したシミュレーション訓練、消防設備取扱訓練を実施している。また、自営消防隊を組織し、市の消防操法大会に参加し優秀な成績で表彰された。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に対する対応について、スタッフ同士で注意し合い、尊厳を傷つけないよう支援を行っている。	利用者のプライドや誇りを損なわないよう、言葉かけや対応について、会議や研修を通して確認しながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	移動やトイレ介助の際等、様々なケアの場面で、ご本人の意思を確認しながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な流れはあるが、ご本人の希望やペースを大切にしたい暮らしの支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望を取り入れており、職員も個々の好みを把握し、おしゃれが出来るような支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	職員と食卓を囲み和やかな雰囲気ですべてを召し上げて頂けるように取り組んでいる。入居者様の要望で、外食の支援も行っている。	利用者との話し合いを通し、出された意見を反映した食事となるよう心掛けており、外食や出前等を取り入れ、利用者と職員が共に食事をしながら和やかで楽しい食事となるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立はカロリー計算されている為、バランスよく摂取できている。水分量も記録されており、摂取量の少ない時はゼリー等で工夫し、十分な摂取量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご本人の力に応じた口腔ケアを実施している。必要に応じて介助も行っている。医療連携の歯科衛生士からの助言も日々のケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し支援することで、失敗を減らす支援を行っている。オムツ使用の方についても、定期的な確認を行い、清潔保持に努めている。	トイレでの排泄ができる利用者が多く、時間を見計らって、羞恥心やプライバシーに配慮したトイレ誘導や声かけを行い自立に向けた支援を心掛けているが、利用者一人ひとりの排泄習慣やパターンなどを把握した支援とはなっていない。	利用者一人ひとりの排泄習慣や排泄パターンなどを把握し、それらに応じた個別の自立に向けた排泄支援ができるよう検討して欲しい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や体操等の働きかけにより予防に努めている。便秘薬については医師との連携を図り、指示に従い内服している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の意見をあらかじめ伺い、支援をしている。入浴時には入浴剤等も使用してリラックスできる空間作りに努めている。	利用者の意向に沿った入浴支援を職員全員で心掛け、入浴時の羞恥心に配慮しながら利用者の状態に合わせた入浴支援をしている。また、入浴剤を使用し、ゆったりした気分で入浴して頂けるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して気持ちよく入眠して頂けるよう、温湿度の管理や環境整備のほか、精神的な安定を促す支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬記録に処方箋の内容や主治医の指示等を記録し、職員間で共有している。また、服薬の際には、職員が傍で、飲み込みを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の得意な事を活かし、一人ひとりの力(洗濯物たたみや掃除等)を発揮して頂けるように支援している。行って頂いたことには感謝の言葉をかけ、やりがいを感じて頂けるように取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近辺の散歩のほか、行事等で遠出する機会を設け、気分転換の出来るような支援を行っている。	利用者との話し合いで出された意見や要望を基に花見やピクニック、買い物等戸外に出掛けられるよう支援している。また、日常的な散歩等は、その日の気分や状態に合わせた支援に努めており、家族の協力で、外出や外泊等も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物する事を楽しみにしている方もいるので、ご本人の希望により金銭の支払い等して頂けるように取り組んでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人の方々に電話しやすい雰囲気作りをしている。外部との交流が途絶えてしまわないように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時期に合わせて壁飾りを変えて、季節感を感じて頂いている。窓からも四季折々の草木を眺めることが出来る。	共用空間には採光が十分取り込める造りで、利用者がゆっくりくつろげるようテーブルや椅子、ソファが配置されている。また、利用者の特技を活かした絵画、刺繍作品や書道、行事写真、四季折々の花などを飾り居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにてテレビを囲み、仲良く談話している様子がみられ、職員も参加しながら仲良く過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	馴染みの家具の持ち込みやご家族の写真を飾る等その人らしい支援をしている。	持ち込みは自由としている。居室には家族写真やテレビ、ミニテーブルを持ち込み、塗り絵、絵画等を飾り、ベット等の配置も、利用者、家族と相談のうえ家庭での生活に配慮した部屋となっている。また、各部屋はベット、クローゼット、洗面台、トイレ、衣装ケースが設置されており、湿度・温度計で室温等の管理もされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の状況に合わせ、手すりの設置や住環境についての見直しをし、安全確保と自立支援を行っている。		